

# Rotary



Weekly Bulletin Vol.69 No.14 2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック 泉大津ロータリークラブ(創立1956.5.4)

## 週報 第3265回

会長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達  
幹事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津  
TEL 0725-20-1121  
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F  
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501  
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org  
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



### 今週の例会(2024年10月25日) 第3265回

#### ■ プログラム

卓話担当 泉谷 仁博 会員

#### ■ 次週のプログラム

11月1日: クラブフォーラム  
今井 克範 ロータリー財団委員長

#### ■ 今後の予定

- 11月8日: 卓話担当 釜野 典子 会員  
卓話講師 泉大津警察署 交通課長 東 喜孝 様

#### ■ 祝 誕生日

川上 正人(27日)  
川端 徹(30日)

#### ■ 今月のロータリーソング

手に手つないで

#### 今月の歌

##### ふるさと

うさぎ追いし かの山  
小ぶな釣りし かの川  
夢は今も めぐりて  
忘れがたき ふるさと

#### ■ 先週の例会



会長の時間 渡辺 万寿 会長

#### ポリオの歴史

20世紀初頭、ポリオは先進国で最も恐れられていた病気の一つであり、毎年何十万人もの子供たちが麻痺を患っていました。しかし、1950年代から1960年代にかけて有効なワクチンが導入されるとすぐに、ポリオは制御下に置かれ、これらの国々では公衆衛生上の問題として実質的に排除されました。ポリオが発展途上国で大きな問題として認識されるまでには、やや時間がかかりました。1970年代の跛行調査では、この病気は発展途上国でも流行していることが明らかになりました。その結果、1970年代には、国家予防接種プログラ



ムの一環として定期予防接種が世界中で導入され、多くの発展途上国での病気の抑制に貢献しました。

国際ロータリーは、1985年に世界の子供たちにポリオ予防接種を行う世界的な取り組みを開始し、1988年には世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)を設立しました。GPEIが始まったとき、ポリオは世界中で毎日1000人以上の子供たちを麻痺させました。それ以来、200カ国以上と2,000万人のボランティアの協力により、25億人以上の子どもたちがポリオの予防接種を受けました。

現在、野生型ポリオウイルスが流行し続けているのはわずか2カ国で、世界のポリオ症例数は99%減少しています。また、ウイルスの特定の株を根絶することにも成功しています。3種類の野生型ポリオウイルス(WPV)のうち、最後の2型症例は1999年に報告され、2015年9月にその根絶が宣言されました。最新のタイプ3の症例は2012年11月にさかのぼり、この株は2019年10月に世界的に根絶されたと宣言されました。

### ポリオについて

ポリオ(ポリオ)は、主に5歳未満の子供が罹患する感染力の強いウイルス性疾患です。ウイルスは、主に糞便から経口経路を通じて、または頻度は低いですが、一般的な媒体(汚染された水や食物など)によって人から人へ感染し、腸内で増殖し、そこから神経系に侵入して麻痺を引き起こす可能性があります。

### ワクチン

麻痺性ポリオを予防するための効果的なワクチンの開発は、20世紀における医学の大きな進歩の一つでした。世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)は、不活化ポリオワクチン(IPV)と経口ポリオワクチン(OPV)の2種類のワクチンを使用してポリオの感染を食い止めています。

地域社会で十分な数の人々がポリオの予防接種を受ければ、ウイルスは感受性の高い宿主を奪われ、死滅します。感染を食い止め、アウトブレイクの発生を防ぐためには、高いレベルのワクチン接種率を維持する必要があります。世界ポリオ撲滅推進活動(GPI)は、世界のさまざまな地域で麻痺性ポリオを予防し、ポリオウイルスの感染を食い止めるために、さまざまな種類のワクチンの最適な使用を常に評価しています。

〈\*感染症のアウトブレイクとは、「一定の期間内 (time) に、特定の地域 (place) 、特定の間人集団 (person) で、予想

されるより多く感染症が発生すること」を指す。〉

世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)は、世界保健機関(WHO)、国際ロータリー、米国疾病対策センター(CDC)、国連児童基金(UNICEF)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gaviワクチンアライアンスの6つのパートナーとともに、各国政府が主導する官民パートナーシップです。その目標は、世界中のポリオを撲滅することです。

### 世界保健機関(WHO)

WHOは、世界ポリオ撲滅推進活動の主要な戦略的計



画、管理、管理のプロセスを調整しています。WHOは、特にサーベイランスと補足的な予防接種活動の分野において、戦略の実施と影響に関する標準化された情報の体系的な収集、照合、および配布に責任を負っています。

また、WHOは、運用研究と基礎研究の調整、保健省への技術支援と運用支援の提供、補足的な技術支援のための人員の訓練と配置の調整も行っています。さらに、WHOは、急性弛緩性麻痺(AFP)の認証基準のサーベイランスの確立、リソースの動員、ドナーの調整、アドボカシー、コミュニケーションにおいて主導的な役割を果たしています。WHOは、認証プロセスの事務局として機能し、生物学的封じ込め活動の実施と監視を促進します。

### 国際ロータリー

国際ロータリーは、世界170カ国以上に120万人の会員



を擁する世界初かつ最大の人道支援団体です。1985年に設立されたポリオ・プラス・プログラムを通じて、ロータリーはポリオのない世界というビジョンを初めて打ち出しました。

ロータリーの主な責務は、募金活動、\*アドボカシー活動、ボランティアの募集です。100万人以上のロータリー会員が、ポリオ撲滅のために時間と個人的な資源をボランティアで提供してきました。また、ロータリー会員は、全国予防接種日には、社会動員や経口ポリオワクチンの子どもへの投与を通じて、貴重な現地支援を提供しています。

ロータリーは、ポリオ撲滅のための闘いに27億ドル以上を寄付し、数え切れないほどのボランティア活動を行ってきたロータリー会員が、ポリオ撲滅のための主要な民間セクターの寄付者です。2007年11月、国際ロータリーはビル&メリンダ・ゲイツとユニークなパートナーシップを締結しま

した

〈\*アドボカシーの活動の幅は非常に広い。広義の意味では「権利や主張を代弁すること」と捉えておけば問題ないだろう。街頭演説やSNSなどで特定の問題に対して理解を求めている人は少なくない。これらもすべてアドボカシーの一環と考えられる。〉

### 米国疾病管理予防センター

CDCは、重要な科学研究を実施し、健康情報を提供することにより、人々を健康上



の脅威から守るよう努めています。CDCは、世界予防接種部門(GID)、ポリオ・ピコルナウイルス研究所 Stop Transmission of Polio(STOP)チームを通じて、GPEIに科学的および技術的な専門知識を提供しています。GIDスタッフは、WHO、ユニセフ、その他のGPEIパートナー、および各国の保健省と協力して、各国でのポリオのサーベイランスと予防接種活動を計画および監視し、病気の伝播傾向の追跡やワクチンの有効性研究などの他の撲滅プロジェクトを支援しています。

CDCのウイルス性疾患部門にあるポリオ・ピコルナウイルス研究所は、WHOのグローバル専門研究所であり、グローバルポリオ研究所ネットワークに技術的およびプログラムの支援を提供しています。

CDCの研究所は、重要な診断サービスを提供し、ポリオウイルスのゲノム配列決定を実施して撲滅活動を導き、野生型ポリオウイルスのより迅速な検出を可能にし、より迅速なアウトブレイク対応を可能にするための特定の運用上の課題の克服を支援します。STOPのスタッフは、GPEIのパートナーと協力して、ポリオ検出のゴールドスタンダードである急性弛緩性麻痺サーベイランスの能力構築を支援するとともに、予防接種キャンペーンの計画、実施、評価を行っています。

### 国連児童基金

ユニセフは、定期予防接種と追加予防接種のためのポリオワクチン



を調達し、配布しています。ユニセフはWHOと協力して、各国が強化された全国予防接種日(NIDs)や準国家予防接種日(SNIDs)の実施、および各国での掃討キャンペーンを支援しています。ユニセフは、各国のプログラムが、ワクチンを地元で受け入れるために不可欠なコミュニケーション戦略を策定するのを支援しています。ユニセフはまた、紛争

の影響を受けた国々など、アクセスが困難な場所にアクセスするための行動計画の策定や物流の確保を各国のプログラムを支援しています。ユニセフは、撲滅政策、行動計画、研修資料、広報の策定に貢献し、アドボカシー活動と資源動員の積極的なパートナーです。

### ビル&メリンダ・ゲイツ財団

ビル&メリンダ・ゲイツ財団

BILL & MELINDA  
GATES foundation

は、世界ポリオ撲滅推進活動

(GPEI)の主要な支援者であり、的を絞った予防接種キャンペーン、地域社会の動員、定期予防接種を加速するための技術的および財政的資源を提供しています。BMGFはパートナーと協力して、ポリオのサーベイランスとアウトブレイク対応を改善しています。より安全で効果的なワクチンを開発する。また、ポリオ撲滅活動に対する財政的・政治的支援を活性化する。BMGFは、大きなリスクを冒し、非伝統的な投資を行うことで貢献する独自の能力を持っています。例としては、ワクチン研究への投資が含まれます。キャンペーン計画のための手描きの地図に代わる地理情報システム(GIS)地図の資金提供。ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタンでの緊急オペレーションセンターの設立。

#### \*サーベイランス【surveillance】

- 1 監視。見張り。また、監視制度。
- 2 感染症・環境汚染・経済などの動向について専門機関が調査・監視を行うこと

### Gavi、ワクチンアライアンス

Gavi (Vaccine Alliance) は、低所得国におけるワクチンの公平な



使用を増やすことで、子供たちの命を救い、人々の健康を守ることに取り組んでいる官民パートナーシップです。Gaviは、革新的な資金調達メカニズムを使用して、持続可能な資金と高品質のワクチンの適切な供給を確保しています。2000年以来、Gaviは7億6,000万人以上の子供たちの予防接種と、1,300万人以上の将来の死亡の防止に貢献してきました。

Gaviは、不活化ポリオワクチン(IPV)を定期予防接種プログラムに含めること、およびGaviが支援する国々の保健システムの強化を支援しています。GaviとGPEIは協力して、2019年初頭までにGaviが支援する71カ国の国内予防接種プログラムにIPVを導入することに成功しました。これは、新しいワクチンの史上最速の導入であり、ポリオのない世

界を達成し維持するための重要なマイルストーンです。

2018年6月、Gaviの取締役会は、2019-20年度のIPV支援を例外的に承認し、2019年6月には、GAVIの次の戦略サイクルの不可欠な部分として、IPV支援の継続を承認したことで、ポリオ撲滅活動への関与をさらに進めました。これにより、すべての子どもがポリオから保護され、ポリオが根絶された後の再発に対する保険が提供されます。Gaviは2019年3月にGPEIに参加しました。

## 幹事報告

松内 俊夫 副幹事

- 本日皆様のテーブルに、「ガバナー月信10月号」を置かせていただいております。ご一読のほどよろしくお願い致します。
- 11月開催の地区大会の登録料を、本日集めさせていただきます。まだの方はよろしくお願い致します。
- 地区大会の記念ゴルフ大会は、来週10月16日(水)に開催されます。ご参加される7名の方は、よろしくお願い致します。
- 次週10月18日(金)の例会は、定款第7条第1節の規定により休会となります。次回例会は10月25日です。
- 10月16日(水)は事務局はお休みです。

## 委員会報告

なし

## ■ ビジター

なし

## ■ 出席報告

会員数44名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
10/11	31名	13名	—	70.45%
9/27	37名	7名	4名	93.18%

## ■ メークアップ

道正田、根尾(9/20 会員増強・クラブ研修委員会)

榎本(10/8 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

八木(秀)(9/24 地区米山委員長会議)

## ■ ニコニコ箱

- ・今井克範会員、本日は宜しく御願ひ致します(渡辺)
- ・本日 今井克範様、卓話宜しく御願ひいたします(松内)
- ・今井克範様、本日卓話よろしく御願ひします(中田)
- ・欠席のお詫び(櫻井)
- ・早退のお詫び(原(正))

ニコニコ箱合計	15,000円
累計	280,000円

## 先週のプログラム

## 「関わっている小津中のお話」



卓話担当 今井 克範 会員

今日は、前回、前々回とお話しをした小津中学校について、またお話しをしたいと思います。小津中学校の地域代表として、学校運営協議会委員で参加して今年で6年目になります。この4月からは、協議会の会長として活動しています。その活動の一環ですが、小津中で年間を通したキャリア教育の授業をして5年目になります。けっこう小津中学校にどっぷりと関わっています。

この6年間でかなり小津中が変化したことは、前回の卓話でもお話ししましたが、昨年文科省の研究開発学校に指定され、今後の学習指導要領の改訂にも関

わる重要なモデル校ともなりました。現行の教育課程によらない取組にもチャレンジできるということで、大きな期待が寄せられています。

生徒が創る学校づくりで、生徒の変化は、  
自分たちで学校や社会は変えられると思う 75%  
自分は責任ある学校や社会の一員だと思う 84%  
と素晴らしい数字でも表れています。

一昨年のルールメイキングでipadの自主使用運用、学校制服の標準服の見直し、ルールづくりをきっかけに、小津中の取組は飛躍的に進化していきました。

このルールメイキング活動で、ユニクロとのコラボでの学校制服コーディネートなど、生徒たちが自分たちで決めて、自分たちで責任をもつ姿勢。そして、保護者や地域の方々への発表の場としての制服ファッションショー企画など、主体的な生徒活動がされています。

これ以降全国的にも注目され、OECD教育との国際共創プロジェクトへ発展しています。現在もOECD教育2030をネットワーキングする活動が小津中とも行われて、ポルトガルの生徒たちとのリアルとオンラインの交流も実施されています。

生徒たちによる「学校のコンパス」づくりで、「共創」を中心とした、生徒たちが主体となり、国際共創や地域共創によって、様々な価値観と出会いながら、学校のコンパス(スクール・ポリシー)が作成されています。

この学校のコンパスづくりでは、まず共創プロジェクトを昨年から始動しました。学年横断型で、各自がしたいプロジェクトをつくったり、参加したりで2期に分け、後期のプロジェクトはなんと65ものプロジェクトを実施して、この2月に最終、発表会ということで「努力が実る桜の祭り」が行われました。文化祭のようでしたが、単なる文化祭でなく、プロジェクトの一環だということ。生徒たちの意識には、充実感と達成感があつたように思いました。

今学期も引き続き「共創プロジェクト」も学年を横断してプロジェクトチームが出来て、授業が行われています。

この生徒たちによる学校のコンパスづくりでは、生徒たちが自らファシリテーションしてつくる、卒業時に目指したい姿としてのスクールポリシーを3つ決めました。「自芯をもつ」「認め合う」「やわらかさで0から1をつくる」この3つが有機的に生徒たちの指針になるよう自らの行動指針にしました。今年は、さらにその3つの方針が具体的にどのような行動によって関わり合うのかを図示しました。これによって、より生徒たちの実行力があがったといえます。

文科省では兼ねてからのアクティブラーニングの一環として探究学習を取り入れていくよう推進していますが、小津中ではこれを「共創プロジェクト」として探究学習の取り組みとして位置づけ、具体的に実践することで成果をあげています。

小津中の4年間にわたる研究開発学校としての活動は、今後の学習指導要領のモデルとしてどのように進化、発展していくのか大いに期待するところです。

この小津中は、現在学校の校舎を長寿命化として大改修を実施していますが、ちょうど研究開発学校として取り組むにあたって、良いタイミングとなっています。これまでの図書室でなく、メディアセンターとしてさまざまな活動をするベースとなっています。生徒たちが自主的に、この場をうまく活動の拠点として、主体性を発揮するためのソフトとハードが一体となった形です。

座敷的にちゃぶ台、おしゃべり場や、テントを立てて秘密基地的に作戦会議をする場を設けたり、生徒たちがデザインした自販機で生徒たちの自主運営資金にあてるなど、斬新な循環の体験もされています。

また、職員室もこれまでの書類で山積みの固定席の先生たちの机ではなく、フリーアドレス制にして、毎日先

生の席が変わり、これによって、普段話さない先生同士のコミュニケーションもできているといいます。企業のおオフィスでもなかなか出来ない事、学校で行うことについて、校長先生は「やればできるんだ」って言うところ、流石だと感じています。

現在も継続して、学校づくりのワークショップではOECD教育との連携事業が行われています。先生や生徒たちだけでなく、地域や他の教育関係者も入り、より交流も活発に行われながら、実績をあげています。そこに私も参加しています。

そして、今年は大阪府の「中学生の主張」コンテストにおいて、3人参加で3人とも10位以内に入る快挙で、素晴らしい成果をあげています。3人とも、ルールメイキング や共創プロジェクトで考え実践した経験をもとに、中学生の主張を発表して評価されているところ、学校と生徒たちの一体となった成果の賜物と言えると感じています。

さらに、3年連続になるのですが、NHKの放送コンテストで、今年も優良賞を受賞しました。1回目はルールメイキング について、2回目は共創プロジェクト、3回目は「通知表のアップデート」についてでした。小津中は、ルールメイキング で全国的にも注目を浴びましたが、研究開発学校に指定されてからは、毎週のように全国の学校関係者から視察がくる学校へと変貌しており、かなり脚光をあびています。

その中では、学校関係だけでなく、ベンチャー企業との協働も開始されていて、いままでの通知表をデジタル通知表に変えていく取り組みを放送コンテストで概要を動画にしています。小津中は、すでに中間期末テストを廃止し、単元テストに切替っていますが、その内容を従来の通知表に反映させるのではなく、リアルタイムでアドバイスもうけることできる、AIによるデジタル通知表の実証実験に参加しています。

今後、2030年の学習指導要領の改定に伴う、未来の

学校のあり方が、このようなデジタル通知表となって進化していくのか期待をしながら、見守っていきたいと思います。

私は、5年目に入るキャリア教育授業が、小津中の斬新な取り組みに置いて行かれないよう、内容も考えながら、頑張っって貢献していきたいと思います。

このような小津中の取り組みはめざましく、進化発展しており、皆さんも泉大津の小津中は実は、すごいんだということを周りの人にも伝えてほしいと思います。

これまで、小津中の取り組みについて紹介させていただきました。

最後に、全然話は違って宣伝になりますが、今年私は60歳という新たな転機を迎えるにあたり、先だって川端さんも本を出版しましたが、私も11月に商業出版のビジネス書を出版予定としています。「伝わるすごい図画力」という書籍です。また、改めて皆様に内容の紹介をさせていただきたいと思っています。

今日は、小津中の情報をお届けいたしました。どうもありがとうございました。